

視覚情報記号論 レジメ 3

名古屋市立大学 2015 年度講義

久木田水生

1 記号の様々な役割

私たちの環境には常に大量の情報が流れている。記号の生産者はその大量の情報の中で、特に重要な情報を選び出し、**はっきりと知覚可能な形式で符号化する**。そのことで伝達したい情報を際立たせることができる。また元の情報が直接的に知覚可能な範囲（距離・時間）は限られているが、記号化された情報は**より広い範囲にまで到達**することができる。また記号は一般に**複製が容易**であるため、複数の記号利用者を介して二次的な伝達が可能である。このようにして記号は、記号生産と解釈のシステムが共有されている限りはどこまでも（距離的・時間的に）遠くまで情報を伝えることができるのである。さらに重要なのは一定の方式に従って記号を組み合わせたたり、記号を操作したりすることによって、**新しい情報資源を作り出す**ことができる、ということである。このような操作を**情報処理**という。そしてまた記号を扱うためのより効率的な媒体・システムを使うことによって、私たちは**より早くより大量の情報を伝達・処理**することができる。

2 情報処理

上では情報処理という言葉に「一定の方式に従って記号を組み合わせたたり、記号を操作したりすることによって新たな情報資源を作ること」を意味するものとして定義した。これが具体的にはどのようなことを意味しているのか、例を挙げて説明しよう。私たちは外界の光という信号を目という感覚器官によって受容し、その信号を電気的あるいは化学的な信号に変換して脳が利用できるようにしている。これが非常に原始的な意味での情報処理である。ここでの情報処理にはイコン的あるいはインデックス的記号が用いられている。

より高度な情報処理としては、例えば $x < y$ と $y < z$ という二つの情報から $x < z$ という新しい情報を導き出すという操作を考えることができる。私たちは通常、「 $x < y$ 」という記号列に x は y より大きいという意味を読み取って理解している。しかしこの推論は記号の意味を考えずとも、単なる記号操作として機械的に遂行することができる。私たちが行っている計算や推論の多くは実際にはこのような機械的な操作によって行われている。記号表現やその操作の規則を洗練させることで、私たちはより効率的に既知の情報から新しい情報を引き出すことができる。また記号をどのような仕方で配置し、どのような仕方でそれを取り出すかの決定も情報処理の重要な側面である。

情報処理は**記号操作に関する規約**によってより効率的にすることができるということは、情報処理にとってイコンやインデックスだけではなくシンボルとしての記号を持つことが重要だということの意味する。そしてこのためには**記号についての情報を伝えるためのより高次の記号使用能力**が必要になるのである。